

前橋版生涯活躍のまち（C C R C）構想

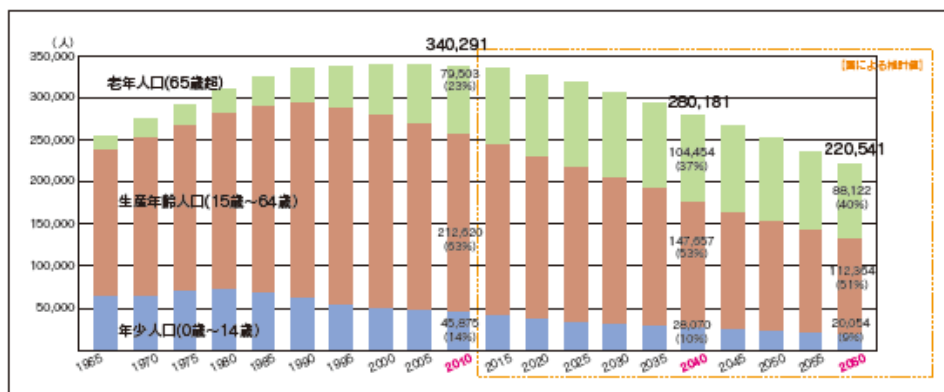
1. 地域の現状と課題

（1）背景

①本市の人口動向

- 本市の人口は、既に人口減少局面へと突入しており、国の推計によれば、現状のまま人口減少が進んだ場合、2010年に約34万人であった人口は、2040年には約28万人、2060年には約22万人まで減少すると見込まれています。併せて、2010年に約23%であった高齢化率は、2060年には40%まで上昇すると見込まれています。また、市民への意識調査では、8割以上の方が、人口減少や高齢化に対して「不安を感じる」としています。

【総人口と年齢3区分別人口の推移】



- このような人口構造の変化の中にあっても、市民が安心・健康・快適に日々の暮らしを送ることのできる持続可能な社会を構築していかなければなりません。しかしながら、本市における近年の人口動態は、自然減（死亡数＞出生数）と社会減（転出＞転入）が同時に進行する状況が続き、地域の活力維持に大きな課題が突きつけられています。
- こうした状況を改善するためには、医療・介護・教育^(※)といった本市の強みを活かし地域の担い手不足を解消する移住者を呼び込むとともに、これまでも増して高齢者の活躍や健康寿命の延伸に向けた取り組みを進める新たな地域づくりが求められています。

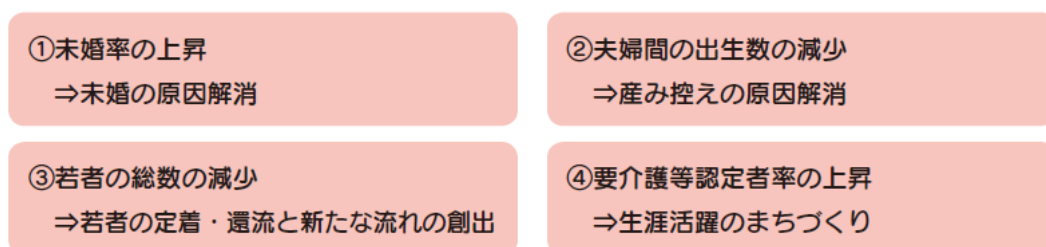
(※) 医療：一次医療（かかりつけ医）から二次医療（基幹病院）・三次医療（高度救急救命センター）まで、医療機関が市全域に立地し、人口10万人あたりの医師数は全国平均の2倍近くとなっています。

介護：市内全域に地域包括システムを展開（高齢者が可能な限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、市内全域11か所に地域包括支援センターを展開し、専門職（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員）による相談・サポート体制を構築）

教育：市内には46の高等教育機関（大学・短大8校、専修学校等38校）が立地しています。

②市の4つの優先課題

- ・人口減少は、社会環境、経済環境、価値観・ライフスタイルの変化など、様々な要因が複雑に絡み合った結果として生じています。したがって、何か一つの処方箋によって劇的な成果が挙げられるものではなく、多岐に渡る取り組みを中・長期的に継続して推進することが重要です。
- ・しかしながら、将来的には人口と税収の減少が見込まれ、行政があらゆる公共的サービスを提供することには限界があることも事実です。そこで、「選択と集中」の観点から、優先的に解決すべき課題を4つに絞り込み、重点的に施策を推進していくこととしています。



＜市の4つの優先課題＞

③目指す将来の方向

- ・生涯活躍のまちづくりはこれらの課題に対応した施策の柱として位置づけられ、創生プランで目指す将来の方向として、以下のとおり位置づけられています。
- ・他の創生プランの10のプロジェクトと連携しながら、高齢化、人口減少に対応しながら、元気に活躍できるまちづくりを行っていきます。

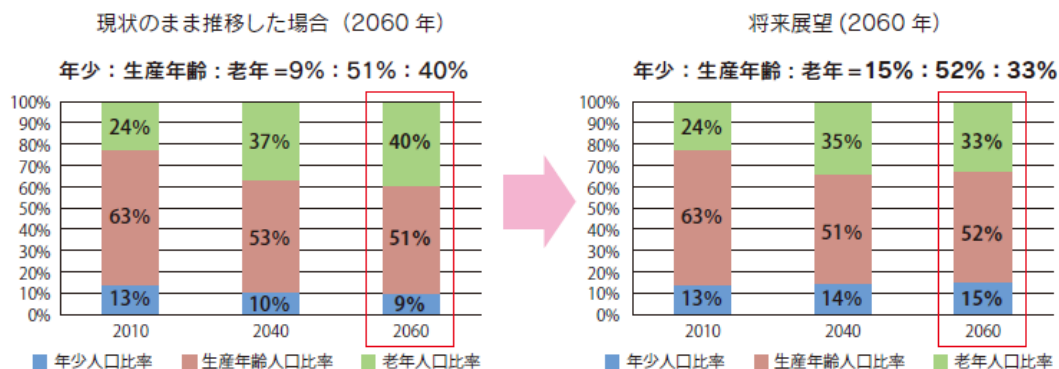
a. 理念

子どもたちの元気な声が聞こえる ずっと住みたい生涯活躍のまち
～健康医療都市まえばし～

b. 人口の将来展望



生産年齢人口・年少人口を増やす（人口構成を改善する）



（２）市民ニーズ

①市政運営に対する市民アンケート

・平成 28 年 9 月に実施したアンケート（5,000 人、無作為抽出）において、市政運営に対する満足度と重要度を尋ねました。「健康づくりの機会や地域で必要な医療を受けられる体制が整っている」ことの満足度については、感じる・やや感じると答えた人の割合が約 7 割、あまり感じない・感じないが約 3 割、重要度については、9 割以上の方が重要・やや重要であると答えています。また、「生涯をとoshした心や身体健康づくりに取り組む環境が整っている」ことの満足度については、感じる・やや感じると答えた人の割合が約 4 割、あまり感じない・感じないが約 6 割、重要度については、8 割以上の方が重要・やや重要であると答えています。今後は、こうした市民の高いニーズに応えながら、満足度を向上させていくことが求められています。

【健康づくりの機会や地域で必要な医療を受けられる体制が整っている】

満足度				重要度			
感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない
22%	49%	25%	4%	62%	33%	4%	1%
71%				95%			
29%							

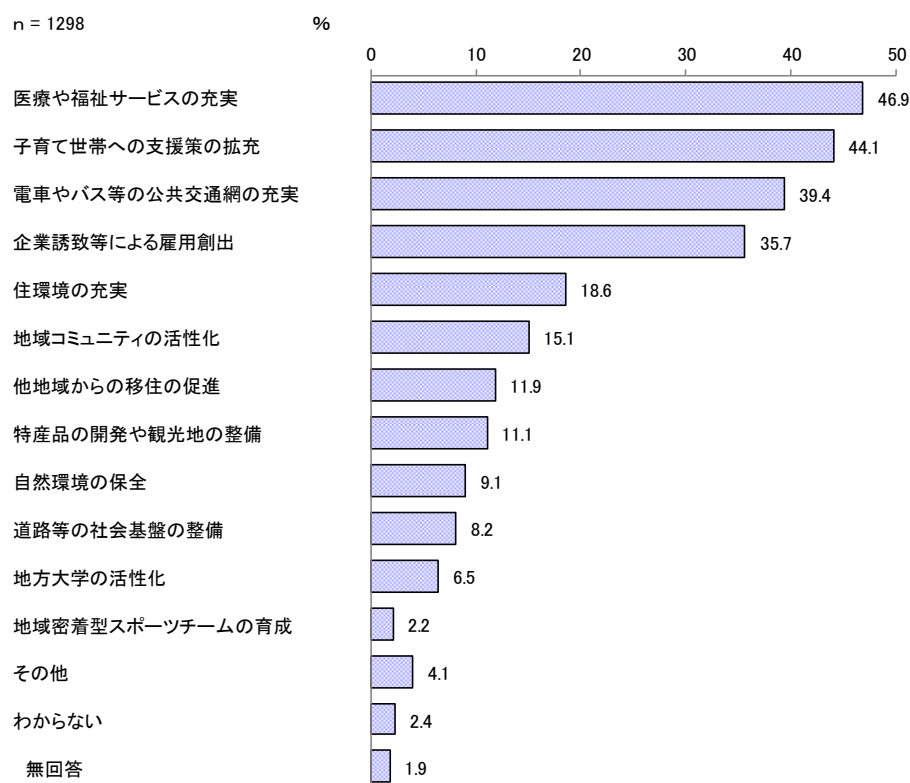
【生涯をとoshした心や身体健康づくりに取り組む環境が整っている】

満足度				重要度			
感じる	やや感じる	あまり感じない	感じない	重要	やや重要	あまり重要でない	重要でない
5%	33%	51%	11%	36%	50%	12%	2%
38%				86%			
62%							

②人口減少に対する市民の意識調査

- ・平成 27 年 5 月に実施した意向調査（3,000 人、無作為抽出）において、「人口減少や高齢化に対して前橋市が行うべき取組」を尋ねました。市が行うべき取組としては、「医療や福祉サービスの充実」（46.9%）が 4 割半ばで最も高く、次いで、「子育て世代への支援策の拡充」（44.1%）、「電車やバス等の公共交通網の充実」（39.4%）などと続いています。こうした多様なニーズを複合的に解決することが求められています。

【人口減少や高齢化に対して前橋市が行うべき取組】



（３）日本版 CCRC 構想と前橋版生涯活躍のまち（CCRC）構想にかかる基礎調査

①日本版 CCRC 構想

- ・国は、東京圏の高齢化を解決する新たな地域づくりを推進するため、「日本版 CCRC^(※) 構想」を掲げました。日本版 CCRC 構想は、「主に東京圏の高齢者が、希望に応じ地方に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくり」を目指すもので、構想が実現すれば、地方における人口減少問題の改善、地域の需要喚起や雇用の維持・創出、多世代との協働を通じた地域の活性化といった効果が期待されるとしています。

(※) CCRC とは、Continuing Care Retirement Community（コネティング ケア リタイアメント コミュニティ）の頭文字を取った略称で、もともとは、仕事をリタイアした人が第二の人生を健康的に楽しむまちを示すものとして、アメリカで生まれた概念

②前橋版生涯活躍のまち（CCRC）構想にかかる基礎調査

- ・人口減少に歯止めをかけるためには、地域の魅力をもって新たな担い手となる転入者を増やすことが求められます。前橋版 CCRC 構想では、医療・健康都市としての強みを発揮しながら、アクティブシニアのみならず、子育て世代を含めた東京圏からの移住を模索することとし、東京圏在住者の移住ニーズや財政影響額を把握するため、「前橋版 CCRC 構想にかかる基礎調査」（H27 年度）を実施しました。

調査の結果、移住ニーズについては、東京圏在住者の約 22%は地方移住の意向があり、女性よりも男性、50-60 代のアクティブシニアよりも 25-49 歳の若年・子育て層で意向が強いことが明らかになりました。

a. 地方移住の意向

- ・一都三県（48,510 人）に在住する方に対して、地方への移住意向をお尋ねしましたところ、以下の結果が明らかになりました。

- 東京圏在住者で、地方への移住意向があるのは 22.1%
- 性・年代別でみると、女性よりも男性、50-60 代のアクティブシニアよりも 25-49 歳の若年・子育て層で意向が強い

b. 群馬県への移住意向

- ・a のうち地方等への移住意向がある方（10,711 人）に対して、移住先候補地をお尋ねしましたところ、以下の結果が明らかになりました。

- 移住候補地としては、沖縄県（10.5%）、北海道（9.0%）、長野県（7.7%）が多い
- 北関東エリアの中では群馬県を第一候補とする人が約 3.4%で最も高い（栃木県 1.7%、茨城県 1.2%）

c. 前橋版 CCRC への関心

- ・前橋市縁ゆかり層及び北関東移住意向あり層^(※)（計 928 人）に対して、前橋版 CCRC への関心をお尋ねしましたところ、以下の結果が明らかになりました。

- 前橋版 CCRC に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた割合は、前橋市縁ゆかり層では約 6 割（59.2%）、北関東移住意向あり層では約 8 割（78.4%）と、総じて高い関心が寄せられた

(※) 前橋市縁ゆかり層：上記 a のうち、出身、在住経験あり、配偶者出身など前橋市に縁ゆかりがある方
北関東移住意向あり層：上記 a のうち、移住の候補地に群馬県・栃木県・茨城県のいずれかが含まれる方

○両方の層において、CCRC のコンセプトのうち**最も関心を集めるのは、「いざという時でも安心な医療介護」**であり、次に、「ライフステージ・価値観にあわせて選択できる住まい」、「希望するライフスタイルを実現」などと続く

○また、**CCRC に求める機能は、「医療」、「生活支援サービス」、「サービス付高齢者住宅等の住宅整備」**などが高い

・市内居住者（計 232 人）に対して、前橋版 CCRC への関心をお尋ねしましたところ、以下の結果が明らかになり、東京圏在住者と同様、高い関心が寄せられるとともに、コンセプトや求める機能は似た傾向にあることがわかりました。

○前橋版 CCRC に「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」と答えた割合は、約 6 割強（65.9%）と、**総じて高い関心が寄せられた**

○CCRC のコンセプトのうち**最も関心を集めるのは、東京圏在住者と同様、「いざという時でも安心な医療介護」**であり、次に、「自分の興味・関心にあわせて学び、成長する」、「ICT を活用した高度な生活サポート」などと続く

○また、**CCRC に求める機能は、「医療」、「生活支援サービス」、「介護・福祉サービス」**などが高い

・また、財政影響額については、想定した 3 つの移住シナリオ全てにおいて、市の医療介護費負担累計額を上回る経済波及効果が見込まれ、地域雇用にも寄与することが明らかになりました。

【経済波及効果と市負担額の差】※政策実施期間：5 年間、政策効果計算期間：50 年間

	①多世代まちなか型 (270 人,25-69 歳)	②多世代全市型 (560 人,25-69 歳)	③単身高齢者型 (160 人,50-79 歳)
経済波及効果(A)	73.2 億円	154.7 億円	22.0 億円
市の医療介護費負担累計額(B)	4.2 億円	8.8 億円	6.6 億円
(A)-(B)	69.0 億円	145.9 億円	15.4 億円

【その他効果】

	①多世代まちなか型 (270 人,25-69 歳)	②多世代全市型 (560 人,25-69 歳)	③単身高齢者型 (160 人,50-79 歳)
雇用誘発数	2,872 人	6,080 人	1,356 人
社会保険料収入	42.8 億円	89.8 億円	6.4 億円
市民税収入	19.6 億円	41.5 億円	3.1 億円

(4) 本構想の役割

- ・本市の特徴として、充実した医療、教育環境等を生かし、人口減少・高齢化に対応した生涯活躍のまちを目指します。

①健康・医療

高度救命医療センターや重粒子線治療施設等をはじめ医療機関が多数集積、安心して医療を受けられる充実した環境。

②農業・食

全国でも有数の農業都市として各種農畜産物を生産。

③立地・防災

群馬県は近隣県に比べて地震発生回数が少なく、複数の高速道路で東京から約 100 キロの好アクセス。

④教育・文化

大学や専門学校が充実、多様な教育を受けられる環境。

⑤自然・エネルギー

赤城山、利根川や広瀬川など、四季折々の表情を見せる自然環境。日照時間の長さを活かした再生可能エネルギーの活用を促進。

- ・こうした資源を踏まえ、本市では、県都まえばし創生プランとして、前橋市の医療・自然・教育環境の充実を活かした結婚・出産・子育て、若者の定着と高齢者の活躍による地域の活力維持を目標に 10 のシンボル事業を位置づけたところです。
- ・この柱の一つに前橋版 CCRC の推進が位置づけられており、これを具現化するものとして本構想を位置づけます。

【総合戦略の10のシンボル事業】

1 若年男女の結婚への壁打破（HAPPY MARRIAGE LAB：ハピラボ） 現代のニーズに合致した新たな結婚支援や出会いの機会の応援	結婚・出産・子育て支援
2 「ジョブセンターまえばし」による包括的就職支援 職業相談から就職後の定着支援まで、ワーク前橋と連携した包括的就職支援	
3 「子育て世代包括支援センター」の充実 妊娠期から子育て期までの不安や負担を解消するスタッフ相談・支援拠点の充実	
4 地域でいきいき学びの場 地域の支援のもと、小中学生を対象に平日は学習活動、休日は体験活動を提供	
5 産学官民コンソーシアムによる学生の定着促進 COC+大学を中心に産学官民コンソーシアムを構成し、市内企業への長期インターンシップ等を実施	若者の定着
6 「ベンチャーへブンまえばし」の実現 「前橋市創業センター」を中心に、各支援機関と連携した一元的な創業支援を展開	
7 魅力の発信拠点となる新たな「道の駅」 「都市と農村の交流空間」をテーマに、本市の魅力を発信する拠点となる道の駅を開設	
8 地域づくりネットワークを核とした「家族移住」の促進 移住コンシェルジュやお試し移住により、移住を希望する東京圏の若者家族を支援	
9 前橋版CCRCの推進 東京圏から移住したアクティビティと地域住民が共に生涯活躍できるまちづくりを推進	生涯活躍
10 交通ネットワークの再編 自動車に過度に依存しない交通ネットワーク形成の構築（鉄道・デマンドバス・LRT等）	

2. 基本方針

（1）前橋版生涯活躍のまち（CCRC）の目指す姿と実現に向けた方向性

＜前橋版生涯活躍のまち（CCRC）の目指す姿＞

前橋版生涯活躍のまち（CCRC）は、「東京圏からの移住者と地域住民が、共に生きがいを持って、生涯にわたり活躍できる新たな地域づくり」を目指すものです。

＜実現に向けた方向性＞

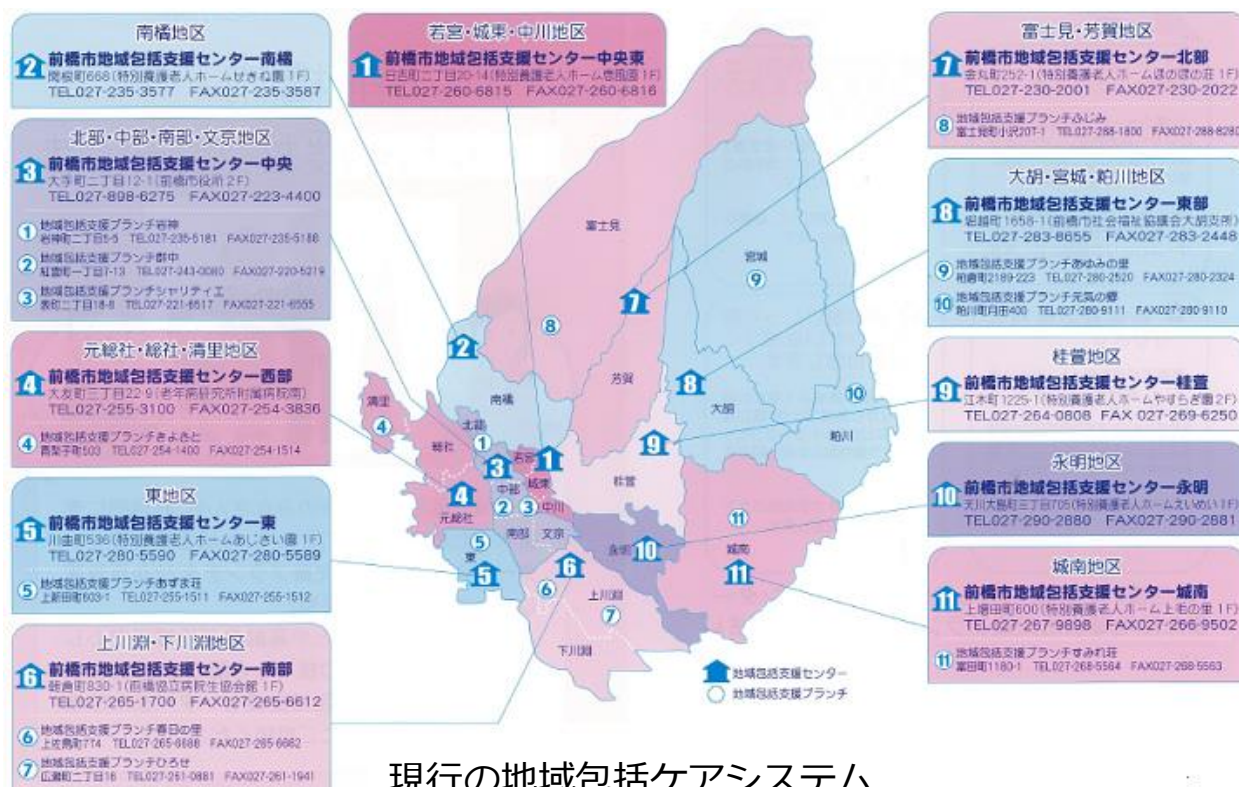
医療・介護支援を中心とする現行の地域包括ケアシステムを軸に、地域の特性に応じた更なる生きがいづくり（就労・ボランティア活動、生涯学習、多世代交流等）の充実を図るとともに、移住促進という新たな付加価値も加えた、言わば「次世代型地域包括ケアシステム」を市全域に構築します。

東京圏からの移住者と地域住民が共に活躍することで、安心・健康・快適な生活環境を実現し、医療・介護負担の抑制を図ります。

(2) 全市的な展開と日赤跡地におけるモデル構築

- ・全 311 k m²の市域は、都市機能が集積する市街地と豊かな自然環境を有する山間農村部が共存し、多様なライフスタイルを実現することができます。既存の地域包括支援センターを軸に、それぞれの地域特性に応じた生きがいくくりや移住促進という新たな付加価値を提供することで、それらが連携・融合した次世代型地域包括ケアシステムの全市的な展開を目指します。

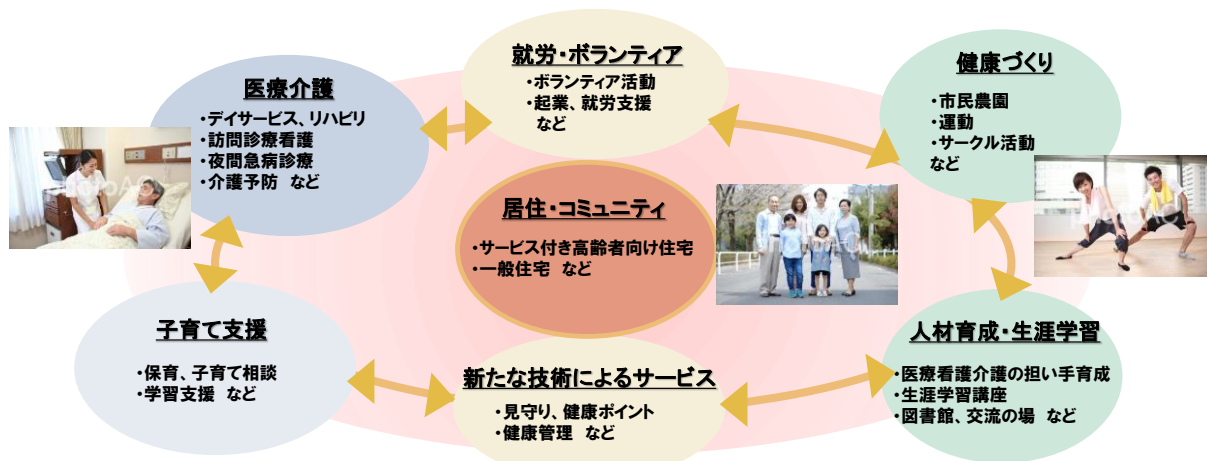
【前橋版生涯活躍のまち（CCRC）のイメージ】



現行の地域包括ケアシステム

× 連携・融合

地域特性に応じた更なる生きがいくくり
移住促進という新たな付加価値



- ・なお、全市的な展開を見据えた第1弾として、前橋赤十字病院跡地において、今後の展開に資する先駆的モデル（日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC））を構築します。

3. 基本方針の実現に向けた取り組み

- ・構想に位置づける以下の事項について、それぞれの考え方を記載します。

- ①入居者像（意思確認、健康状態、年齢、住み替え形態、所得、属性）
- ②立地、居住環境（地域社会との交流・協働、居住空間、運営推進機能の整備、立地エリアや広がり、地域資源の活用方法や地域包括ケアとの連携）
- ③サービスの提供（移住支援、継続的ケアや就労・社会参加等）
- ④事業運営（入居者の参加や情報公開、参加主体の確保、持続的な事業運営等）

（1）対象者の考え方

- ・豊かな自然環境と利便性、医療介護環境の確保をベースに、活躍できる環境、健康を維持できる環境、望めば交流できるコミュニティを構築し、市民、移住者双方の生活の質を高めながら、雇用の創出にもつなげていきます。

a.市民

- ・日常生活圏域を基本として、地域包括支援センターと連携しながら、高齢者や子育て層の住み替えのほか、地域に応じた市民向けのサービスを提供します。
- ・市内企業・大学／学校・団体等と連携して、高齢者や女性等の多世代の参加によって健康なまちづくりを主体的に推進し、ICT、高度医療等も活用して産業創出と健康な暮らしの双方を実現します。

b.東京圏や周辺地域からの移住者

- ・アクティブシニア、子育て層をはじめとして、市内の雇用創出につながる移住を促進するとともに、特に前橋の産業となる食農・健康に関連する産業の担い手となりうる方の移住を目指します。

(2) 立地の考え方

- ・市全域で「次世代型地域包括ケアシステム」を展開すべく、日常生活圏域に応じた5つのエリアを基本に、現有する医療介護施設、教育・コミュニティ機能等を組み合わせながら、各地域特性を活かしたサービスを提供します。
- ・なお、中央エリアについては、先駆的モデルである日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC）を構築し、そのノウハウを全市域へと展開していきます。

＜エリア構成の考え方＞

在宅医療の推進、病院・診療所の連携推進、在宅医療と介護の連携を3つの柱とする「おうちで療養相談センターまえばし」の5ブロックを参考に構成している。

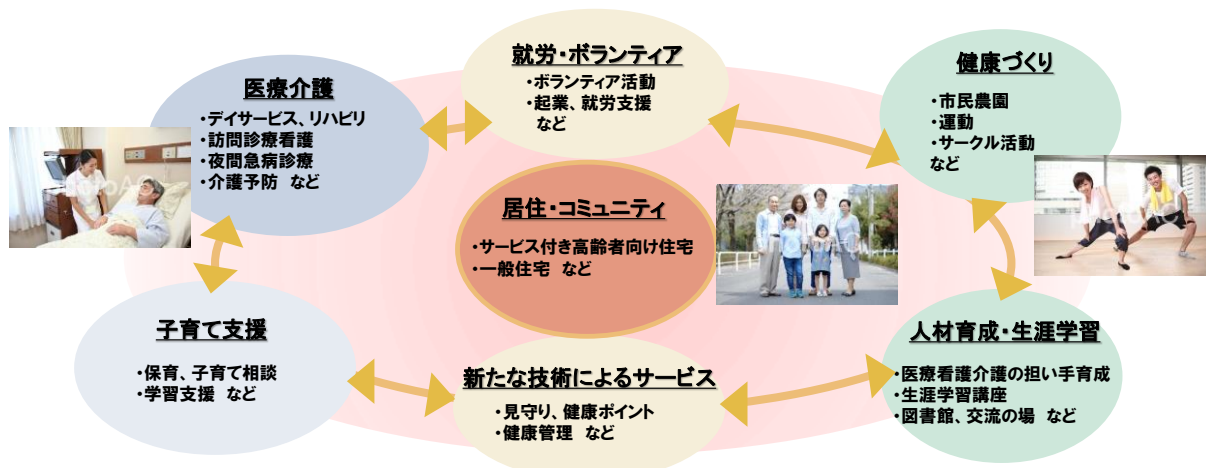
エリア	地区
A 中央	本庁（若宮・城東・中川・北部・中部・文京・南部）
B 東	桂萱・大胡・粕川・宮城
C 西	元総社・総社・清里・東
D 南	永明・上川淵・下川淵・城南
E 北	南橋・芳賀・富士見



(3) サービス提供の考え方

- ・関連する市のプロジェクトとも連動しながら、次の機能の導入を図ります。

【前橋版生涯活躍のまち（CCRC）の機能イメージ】（再掲）



●基本機能

住まい、医療介護サービスの提供と生涯活躍に向けた人材育成機能を基本として、移住者、地域住民が活用可能な拠点を形成します。

－住まい

- ・高齢者向け住まい（サービス付高齢者向け住宅など）
- ・子育て層を含む広く一般に向けた住まい（空き家の活用等を含む）

－医療介護（ICT によるサービス含む）、子育て支援

- ・地域の安心を支える在宅介護・子育てを支える機能（デイサービス、リハビリ、訪問サービス拠点とこれらの相談を含む地域包括支援センター）
- ・地域の参加、事業者による子育て支援等

－生きがい創出（健康づくり、就労・ボランティア、人材育成・生涯学習）

- ・生涯教育、就労による生きがい創出、各種活動の担い手育成のための市民大学機能

●追加機能

生涯活躍のまち（CCRC）の拠点として、これからの前橋市の健康創出、移住者への魅力づけ、地域の活性化につながる交流機能を提供していきます。

－住まい

- ・集合住宅（転勤者、お試し居住や長期滞在者（医療観光含む）向けのサービスアパートメント等）

－医療介護（ICT によるサービス含む）

- ・健康維持増進（食、アンチエイジング、運動等）とこれらの相談・研修、ICT を活用した研究開発実証機能

－生きがい創出（健康づくり、就労・ボランティア、人材育成・生涯学習）

- ・市内の農産品等のマルシェ、豚等の地域資源を活用した飲食店等の出店、イベント機能
- ・まちなかとの連携によるまちづくり活動（学生居住・シェアハウス、まちなか研究室との連携等）
- ・上記の活動の場としてのまちのシンボル空間の形成、多様な主体による柔軟な利用の実現

－その他生活環境（ICT 活用含む）

- ・地域の生活サポート機能（子育て、買い物支援・日常生活サポート、見守り等）
- ・駅や市内の移動のための交通環境の確保

●東京圏からの移住促進

- ・アンケート結果からは、子育て層の移住意向がシニアよりも高い傾向もあることから、東京圏からの移住を促進するためには、子育てのしやすい安心な居住環境であること、働く場の紹介や多様なライフスタイルの実現が可能であることなどをPRしていくことも必要となります。
- ・あわせて、転勤者の地域への愛着醸成、前橋出身者等への働きかけなども含め、東京圏に事業所のある社と連携した住み替え支援、移住者向けローンやリバースモーゲージ等の金融機関と連携した商品開発なども有効と考えられます。
- ・このほか、前橋の魅力づけにつながる地域活動、東京と連携したイベント開催（東京での前橋出身者の活動や前橋の産業の紹介）、お試し居住や二地域居住などの取り組みも実施していくことが考えられます。

4. 運営体制

- ・地域包括支援センターと連携して、市内5つのエリアを基本に活動の場、コーディネート体制を確保（＝次世代型地域包括ケア）していくほか、具体的な取り組みについて、民間事業者と連携しながら、市民・移住者と協働して取り組みます。

○行政（市、県）

- ✓ 拠点や事業者の選定・体制構築支援、民間の取り組み支援、進捗管理、合意形成
- ✓ 夜間急病診療所ほか関連する公的施設の整備
- ✓ 関連する地域創生プロジェクト等の施策連携（立地適正化計画・道の駅、交通、移住支援、空き家バンクほか）、民間の取り組みとの連携 等

○事業者／団体

- ✓ 構想に基づく拠点の整備運営
- ✓ 行政、住民等との連携 等

○住民／移住者

- ✓ 活動への参加とサービスの享受 等

5. 目標指標

- ・ 県都まえばし創生プランを基本に以下を設定し、フォローアップを図ります。

※県都まえばし創生プランにおける関連指標（例）

H31 新たな CCRC 拠点の整備 1 箇所

要介護認定者率 18%⇒20%以内

移住相談件数 20 件⇒50 件

6. 日赤跡地生涯活躍のまち（CCRC）基本構想の考え方

（１）基本方針

- ・ 全市版のコンセプトに即したものとし、まちなかとしての特徴を反映しながら、第一弾のモデル事業として事業者の意向を反映して実現性のあるものとします。

（２）実現に向けた取り組み

- ・ 国の生涯活躍のまち構想策定の手引きに準じて、前橋全市版の構想に即してそれぞれの考え方を記載していきます。

- ①入居者像（意思確認、健康状態、年齢、住み替え形態、所得、属性）
- ②立地、居住環境（地域社会との交流・協働、居住空間、運営推進機能の整備、立地エリアや広がり、地域資源の活用方法や地域包括ケアとの連携）
- ③サービスの提供（移住支援、継続的ケアや就労・社会参加等）
- ④事業運営（入居者の参加や情報公開、参加主体の確保、持続的な事業運営等）

①入居者像

- ・ 元気なうちから虚弱になっても住み続けられる高齢者向けの住まいを確保
- ・ 全市的な人口構成の変化に対応し、子育て世帯の住まいも確保し、多世代交流を実現
- ・ 市民、東京圏や周辺地域からの移住者も利用できる拠点として、社会参加の場を提供

②立地、居住環境

- ・ 日赤跡地において、居住機能、医療介護機能を中心に地域包括ケアとの連携を図りつつ、コーディネーターを配置して各種機能のマッチングを図るとともに、居住空間を確保し、前橋市中央部の方を中心とした交流空間を運営していきます。

③サービスの提供

- ・関連するプロジェクトとも連動しながら、以下の機能の導入を図ります。

<日赤跡地の事業者公募時に求める機能（案）>

優先度	機能	条件（例）
必須	①居住	・ 高齢者向け／子育て世帯双方に対応した住まいの整備
	②医療介護	・ 高齢者のケア、居住者の見守り体制の構築 ・ 医療機関との連携体制の確保 ※介護施設については「まえばしスマイルプラン」と整合をとること
	③全体調整	・ 本敷地に導入する各種機能が連携し、居住者や利用者の交流、適切なサービス提供が可能となるコーディネート
いずれか 必須（敷 地外の主 体との連 携も可）	④健康づくり	・ 居住者や地域の方々の健康増進につながる活動や食、運動等のプログラムの提供とその場の設置・運営
	⑤就労・交流	・ 就労・ボランティア、人材育成・生涯学習などの活動について、相談や活動が可能な体制の構築、場の設置・運営
	⑥子育て支援	・ 子育て相談、子どもの教育関連サービスの提供 等
望ましい	⑦その他	・ 上記のほか、医療介護、健康づくり、生きがい創出、生活支援等につながる機能や“前橋ならではの”機能（食、生活支援、アンチエイジング、交通改善、ICT活用等）

④事業運営

- ・行政（市、県）：夜間急病診療所の整備、障害者福祉施設の整備、関係事業者との連携体制の構築支援、進捗管理、住民合意形成 等
- ・事業者／団体：構想に基づく拠点の整備運営（市、地域包括支援センターほかと連携）
等
- ・住民／移住者：活動への参加とサービスの享受 等